

総務文教・産業建設常任委員会
「木材チップ生産施設建設事業」

所管事務調査の報告

総務文教・産業建設両常任委員会合同での3回にわたる所管事務調査が終了しましたのでご報告いたします。

「木材チップ生産施設建設事業」は、町産材の利用と未利用材の有効活用と森林再生による雇用の創出、森林整備、林業による地域経済の循環を目的として計画されたもので、それぞれの調査には東根農林建設課長を始め担当職員の同行を求め、工事の内容や進捗について詳しい説明を受けることが出来ました。

敷地造成工事については軟弱な地盤で盛り土の厚さ、豪雨時の勾配、排水溝の設置状態、又、生産したチップの格納庫やチップ積み込み台の利便性、作業従事者の安全など念入りに調査をした中で、委員からは排水処理施設の増設やチップの積み込み台の安全性などへの対策の必要性を求める意見が出されました。

木材価格が低下し、森林経営が全国的に低迷する昨今、バイオマスチップ生産事業により、間伐材の利活用や林家の個口買い上げ等での熱源の創出、又、森林整備により、サル、イノシシからの鳥獣害防止対策など循環型の取り組みが期待されます。バイオマスチップ生産施設に関連するチップパー機や運搬車も揃い、3企業出資による新会社との指定管理契約も行われており、山林所有者の所得向上と林業活性化、更に素材の安定供給と雇用の確保などと共に安定した経営を期待して報告といたします。

総務文教常任委員会
委員長 吉田 修
産業建設常任委員会
委員長 梅津 政志



▲最終所管事務調査の様子



問 仮置き場の放射性廃棄物は現状保管すべきでは
答 本町の廃棄物処理は令和5年度に焼却処分予定

問 福島原発事故から10年が経過し、町内の出荷農作物のセシウムも基準値以内であるが、県内の原木シイタケなど、いまだに解除されていない。柏木山仮置き場の放射性廃棄物の保管状況は。
答 平成25年に放射性物質82トン、汚染牧草790トンを2箇所に分け、飛散、流失防止の為、専用のシートで保管している。



吉田 修 議員

問 柏木山仮置き場の空間線量は示されているが、シート内の放射性廃棄物のベクレル数値は。
答 シート被覆の為、内部の測定は行っていないが、空間線量は基準値内であり、地下水の放射性物質については、不検出となっている。

問 8,000ベクレル以下の放射性汚染廃棄物は市町村で処分する事としていますが、当町では現状のまま保管し、放射能の減衰を待つべきではないか。
答 以前にも説明してきたが、仙南地域広域行政事務組合の施設において処理することに決定しており、本町の廃棄物は令和5年度に焼却する予定となっている。



▲柏木山仮置き場写真

問 仙南クリーンセンターの近隣住民が心配し、恐れているのは内部被ばくによる健康被害です。
答 クリーンセンターではモニタリングポストを設置し空間線量を測定しているが、基準値以下とのことであるが、放射能の安全性については認めざるを得ない。
問 煙突のバグフィルター（注2）で放射性物質を除去出来るとのことだが、少量でも長期間体内に蓄積すると体に影響を及ぼすといわれる。
答 煙突のバグフィルター（注2）で放射性物質を除去出来るとのことだが、少量でも長期間体内に蓄積すると体に影響を及ぼすといわれる。

問 放射性廃棄物8,000ベクレル以下は一般ゴミ扱いなら、町有地、国有地にすきこみができるのではないか。
答 すきこみは長期間、放射性物質が燃やせないとなれば、一般ごみも燃やせなくなる。
問 放射能の土壌を作ることになる。又、基準値内の放射性物質が燃やせないと燃やせば、一般ごみも燃やせなくなる。
答 汚染牧草の本焼却については、計画に沿って進めたい。

▲バグフィルター内部
出典：環境省 放射線物質汚染廃棄物処理情報サイト

（注2）バグフィルター
施設内で発生する有害物質を除去する装置。